

『踏み出す一歩』 寸評

- ・ 鍵盤楽器用の三声インヴェンション
- ・ 簡素でやや単調なリズム展開のなかに形式の充実がはかられている
- ・ 対旋律が凡庸
- ・ 全体の流れと三声の音域配置はむりがない
- ・ タイトルから音楽への確信も看取される

完成度をさらに上げるために

- ・ 対位法を前面に出した作品だと、様式に則った時点でよしとしていないだろうか
- ・ どこに自分らしさを出すかの工夫がまちがってないレベルに留まりがち
- ・ 連続5度を用いてももちろんよいが、もっと思い切りがほしい
- ・ 対位法の自由度を上げていく研究意識を常日頃からもとう
- ・ 作品の個性がタイトルに逃げている感触（これが単なるインヴェンション第1番だったらこの内容で耐え得るか？）
- ・ 内容の充実と、あらたな試みをどこかしらに模索するバランスを探ろう

まあ問題ありません。

持庵 勉